日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）043（222）7207番

94.7.18 No. 4028

危機と混迷の中で登場した村山政権

本年六月二九日、衆議院本会議。土井貴子議長が「決戦投票の結果、内閣総理大臣は村山富一さんとなりました。」と首相決戦投票の開票結果を読み上げた。この村山・社会党委員長の首相任命に、自民党席からは「ヨーシ」の掛け声とともに割れんばかりの拍手が巻き起こる。

翌日、自民党・社会党・さきがけの三党によって社会党委員長を首班とする村山内閣が誕生した。

なんとも不思議なことである。つい昨年までは、国会内で対決していたはずの社会党と自民党が手を組み、連立政権を作った。しかも、国会内では第二勢力の社会党委員長が首相となった。

新生党・小沢路線を継承する

六・二九の前に自民党・社会党・さきがけの三党が合意した「共同政権構想」は基本的に旧連立与党が掲げていた政策と同様のものであり、①北朝鮮の「核疑惑」に対して、「国連安保理で決議が行なわれた場合、日本はその趣旨に従い、憲法の範囲内で可能な限りでの措置を行う。」②「政治改革関連法に基づく制度改革を着実に実現する。早期に『選挙区区割り法案』を早期に成立させ」る。③税制改革については、「行政改革による財政効果、高齢社会に必要な財政負担、間接税の税率引き上げなど、現行消費税の改廃を服務総合的改革案を提示して、…今年中に関連法案を成立させるよう努力する。」④「国連の平和維持活動（PKO）に積極的に参加する。」などとなっている。

さらに、村山首相は、①就任早々、「日の丸、君が代は日本の国旗、国家である。」とし、②ナポリサミットの際には、二〇〇万人の失業者を生み出すと言われる「規制緩和」の積極推進を打ち上げ、③秋の社会党大会では、自衛隊につきこれまで「違憲ではあるが合法的存在」としていたものを、「首相を出している政党にそぐわない」として「自衛隊は合憲」と打ち出すとしている。④従軍慰安婦問題について「国と国との戦後保障はかたがついている」として「個人保障はしない」などとしている。

首相になった途端、結党の理念をも次々とかなぐり捨ててしまう社会党の現在に、われわれは危機感と危惧を持たざるを得ない。

危機の時代に登場する社会党政権

「五五年体制」のもとで、三八年間、受動的な性格しか持ち得なかった社会党が、現在の深刻な危機のなかで能動的な立場に立った。そして事実、新生党・小沢路線をより一層推進してしまっている。しかも、社会党であるが故に、新生党や自民党より労働者を戦争政策に積極的に取り込み、動員していくということが可能な、より反動的なより凶暴な性格を持つ可能性があると言わざるを得ない。

事実、村山政権の登場は、労働者に幻想と混乱をもたらしている。

そして歴史上、社会党連立政権が生まれている時とその政策を見れば、その行く末に危惧を持たざるを得ない。

一九一八年、ドイツ革命のなかで誕生し、「民主的」と言われた「ワイマール政権」。国防大臣に座った社会民主党のノスケは、戦争政策に反対して闘ったローザ・ルクセンブルグやカール・ループクネヒトを虐殺した。

また、日本でも、一九四七年～四九年、四七年の二・一ゼネストまで登り詰めた労働者の闘いの余勢をかって成立した社会党の片山委員長を首相とする連立内閣、その直後の社会党・加藤勘十労働大臣を含む芦田内閣は、公務員労働者からスト権を奪った「政令二〇一号」の発布、さらに国鉄、郵政労働者に対し「定員法」によって一〇万人の首切りを強行し、結果、五〇年の朝鮮戦争への労働者の屈服・協力を掃き清めた。

今また、しかも労働者の闘いが停滞・混迷しているなか、社会党首相の登場は、やはり危機の時代と象徴と言える。

くみあいものがたり

作・千葉 習作

7/23・24青年部サマーキャンプ
うばら四葉荘（23日15時集合）

8/6～9 広島・長崎反戦闘争に決起しよう!!